

大塚陳節

9

定綱公依奉之清事

大坂清徳成りて慶長十九申寅年

西公清進發序

定綱公依奉時所居三系山川清徳成

幸方北子存、清願知也

清俊清書院 組二十騎之將也



即祖領

之田藤止郎

市進發前慶長十九申寅十月朔日駿府名軍人三を諸將出候

於東武、右取之証進正以 聞古之十月留軍令を諸將不

下、証進中之一通、たてま

定

一路次中宿、木錢之事、亭定之新を燒、人小、

三父宛たる馬三足、六父宛たる

但陣屋目録、薪を未、燒、宿賃、有る、

一 駿貨馬之事馬次公家ノ事ノ返通是ノ事  
一 駿貨然事馬定之事ノ嚴密アリテ事

慶長十九

安藤對馬守

出井右助守

酒井備後守

紫之邊身令等不傳也

齊家ノ事令等亦多守后出百不矣

慶長二十二年卯年 壬午年 壬辰年 壬戌年 壬寅年 壬申年

定綱之儀奉前年乃之 而此四采清治城存之同

四月朔日清原福清氏之通

高 家 飛 鳥 籠

國語成行

三首如月如日

西月如日如月

志如日如月

男如日如月

の如日如月

高如日如月

人如日如月

人形大蛇池

人形大蛇池

人形大蛇池

人形大蛇池

人形大蛇池

人形大蛇池

人形大蛇池

人形大蛇池

人形大蛇池



松平定房の軍法

市軍令左之通

軍法

一 喧嘩口論皆停之。若於遠方、車者不論、俟雙方在  
の決罪或存親類係者、因或依傍、車者、好者、後、族  
有之者、本人、若も、由事、之、回、急度、下、付、自、他、於、人、之、用、捨  
ハ、惟、後、目、小、相、聞、其、人、の、事、を、科、事、

一 先子、を、後、致、親、雖、令、高、谷、片、軍、法、上、者、可、處、罪、科、事、

付、先子、ノ、不、相、聞、之、を、見、を、出、命、か、ら、る、事、

一 子、細、く、し、他、之、備、上、相、交、事、有、之、者、亦、具、馬、尺、の、也、若、具

一 之、人、於、及、其、儀、者、共、以、之、由、下、り、

一 又、殺、押、之、時、旅、道、は、之、を、由、之、科、事、

一 諸、事、若、其、人、ノ、付、不、其、遠、也、日、事、

一 若、時、之、使、心、何、様、之、者、を、孩、也、之、を、不、其、遠、也、日、事、

一 持、法、之、軍、儀、之、事、若、長、柄、之、者、也、若、持、之、事、也、但、長、柄、之、事、

... 於て 多人馬の廻り... 事

... 押買狼藉若於遠近... 事

... 路次中右... 事

... 船渡... 事

... 若... 事

○ 所...

慶長二十年四月四日

條...

今度... 神妙...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...

... 其...



市休官將りて口取り侍并高聲年仕出でて銀子一枚の出来  
清道具入能事り多き方成事  
即ち侍中御着座時於河津中庭願中成り事  
所通下り於此言言物めつす事多し事多し事多し事  
いつれも相傳事多し者分事として同い事定し御侍傳り  
つは相傳事

慶長九年四月四日

右ノ外小も有る事不相傳

西宮之御儀令等々之度も書比下り不相傳

同午四月四日

方侍所様駿府 御出馬

方御所後四月十日武江所出さ 定綱の奉儀

十日 神奈川十日 藤澤 十一日 山田原

十三日 三橋 十四日 清水 十五日 田中

十六日 魚川 十七日 新居 十八日 岡崎

十九日 熱田 廿日 土山 廿一日 伏見小倉

定綱公八侍書院湯之平三人御備也

一 水野殿

二 土山山殿

三 方様

方將軍方儀取御取遣り日有通し御備願也

定綱公八侍見之御儀御定儀 江戸迄多思百有之故わさし

將利を後へ進りし事御儀取遣りし御儀御親之儀乳を吞

食す御儀御取遣りし御儀御親之儀乳を吞

此為 出湯急事先之御取遣りし御儀御親之儀乳を吞

先ず下りし山押は感不是則方取意山押落し道筋其の是  
地多不水陸敷合口使守敵の津定ら行列相遠下は後  
下りし敵の故也 今も是を少候と道新中守伏見し意多  
進し中守押前も協進守以ては其意を放意を承の是亦甲  
ころは取しとてはありし方取れは是意を承の是亦甲  
合の目分を授け侍り素敵しをい言を承し取し是意を承の是亦甲  
少候出さぬと云 是意を承し是意を承の是亦甲  
此方之押進宿道筋の道悪きより中守組荒口所下知赤塚前  
山際田アリ連ふ地かき比之者い言を承の是亦甲  
道悪きを承けぬるも中守組荒口所下知赤塚前  
悪きを承けぬるも中守組荒口所下知赤塚前  
と云ふ其子細は其の悪き若し若し不度は仕着と 是意を承  
道悪き由は 是意を承けぬるも中守組荒口所下知赤塚前

山道筋を深田そは事奉 赤塚持の者右善とゆふは其の  
はよりく越えぬを若右た受則良朝を付侍はきり依の仕着  
ありしより中守組荒口所下知赤塚前  
少許乳通るを承けぬるも中守組荒口所下知赤塚前  
公所見かす所所り之は是意を承けぬるも中守組荒口所下知赤塚前  
口社を志し以協進し入るも中守組荒口所下知赤塚前  
五月七日早且諸勢方取素着る東へ岡山南へ方取置し是凡  
諸勢元満の取の取を侍 方將軍の陣所へ岡山也 是意を承けぬるも中守組荒口所下知赤塚前

松平の乳前守殿 能賀國

左備ハ 御籠元書院 三題

一 水野 牟人組 白母衣

二 三目山伯耆守組 黒母衣

三 け方様組 鳥毛半月

古く通し備ふ

日將方坂城を此より守り相双す移ふ如き物有  
其時固谷遊多各若谷在受し申し守り相双す  
五物を以て見ゆし故に不の植不植見ゆる固谷  
縁多并是は氣下云物也上り下(消多字下)之消多字  
の見下云無程其時分より不之消多から申程多六  
方守へより以かひをそ階多うその時固谷申ふ今日  
落城無疑か高名ハ必今日切也好むをききしと  
互受口申と也

云年改責に城をくくまの備の明か見ゆる  
今より六城期よきし見ゆるまの備ハ五煙  
第一五二より見ゆ也

公に御用物ハ 金幣也

御用物ハ 金幣也

御用物ハ 無ノ字也

御用物ハ

白地指く四半上小指指く御紋中六門を御用物

相する毎に指し 公御用物ハ 但出ゆ

此乃種多ハ布一幅く赤之袋袋を長く米或は飯或は  
を入一き名く小山切り粒深めくかかたゲ可小意く武者  
なり也

此小袋ハ 東本寺

御用物ハ 相するハ

